

不思議で愉快的散歩道

(年取ることと日誌から)

C L 教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2010/05/04

作業服を着た男性が荷台に殺虫剤のタンクを載せたミニトラックを民家の門前に止めて、門内の二本の松に殺虫剤をホース噴霧器で噴射している。作業の直後、噴射をしていた作業員は他の一人にホースの片付けを頼んで、門前の下水溝に立小便。噴射の行動で感情が刺激されたのかもしれない。

2010/05/06

ウォーキングの目的地の寺院は、幼い頃両親に連れてこられ、生前、両親をつれてきた場所。その奥にある山門前に、白髪の男性が後ろ手に組み花盛りのツツジを見ながらそぞろ歩いている。その後姿は亡き父に似て、まるで久しぶりに出会えたようで、懐かしさがこみ上がる。その男性の横を通り過ぎながら、この世では絶対に二度と会えない事実を再確認して悲しい。

「絶対という表現は事実と違っているから、何度も使うと信じてしまうから気をつけて」とC Lの教えにはある。この場合も当てはまるのだ。そうか、私の心を察して、あの世から父が現世の人を介して会いに来てくれたに違いない。五感では会っていなくても心と心で会ったひと時をプレゼントしてくれた。やっぱり私のお父さん「ありがとう」。

2010/05/09

「そちらのあれ、あれつかう？」と夫が聞く「それじゃ、まったくわからないでしょう」と私。夫は笑って頷きながら、「自分の辞書（本）使うかな」と言い直す。「ああ、電子辞書のこと」。辞典には万の言葉が入っているが。実際に使うのはますます少なく、指で数えるほど。「あれ、これ」辞書があってもいい。

2010/05/09

駅のホームに行く階段を上がろうとすると上がったところの真ん中で、高齢の婦人が大声で携帯電話で話している。場所を^{わきまえ}弁えない電車を待つ他の人の^{ひんしゆく}輦輦を買う態度に、もうっと思ったが、記録している日誌のネタになると、耳を^{そばだ}敬てる。

「あの人J Rじゃ心もとないって言うから京成の中山駅ですっと待ってるのよ。3時15分からずっと」駅の時計はちょうど4時。「えーっ！待たなくていいの、置いてっちゃうの？ああ連絡ついてるの、電話したのね」とたぶん三人から二人での待ち合わせ変更の段取りがついたのか、ホームを降りて改札を出て行った。同時にホームは静かになった。携帯電話をもっているのに、45分も待つ辛抱強さに脱帽と不思議に思った。電車が静かにホームに停まった。

2010/05/16

寺院の参道脇で灰色の三毛猫が草わらを^{くわえ}銜えている。何を口に銜えているのか見ていると、土の上に

口のものを吐き出した。なんと、トカゲ一匹。まだ生きているトカゲは喰われてはたまらないと一瞬の猫の隙をぬってぱっと細いどぶをめがけて逃げ走る。猫は逃げられてはと前足で捕まえようとしたが、トカゲはどぶの中へスルリと入り込む。猫はどぶの中に前足（手）を突っ込んだが、水が少しあるのかすぐに引っ込める。どぶを覗き込んで必死にトカゲを探す、俊足のトカゲはとつくにどこかに消えうせて姿なし。「残念でした」と猫に声を掛けるとふっと我に返った猫はくやしそうに「にゃー」と啼きながら諦めきれない顔つきでとぼとぼと歩き去った（動物でも失敗の結果と気持ちを受け入れながら次に向かう）。動物のなすべきことへの必死の態度に脱帽。

2010/06/05

盛りのついた猫が3匹鳴き声を上げて唸って互いににらみ合っている。道を隔てた向かいの家の庭で一匹の犬が猫の鳴き声に合わせて遠吠えしている。確かに4匹なら二カップルになり数は合う。

2010/07/03

蒸し暑いこの時期は仕事に精を出している人、宅配で走って荷物を届ける運転手さん、介護の車椅子を押している人、あかちゃんをおんぶして、両手に子どもと手を繋いでる保育士さん、急ぎ足で交差点を横切るスーツ姿のサラリーマン、畑仕事、線路工事、建築工事、道路工事をしている人が目に止まる。汗と埃まみれの姿は美しく、不思議にほっとする。働くその努力によって、自分や家族、他の人たちが支えられている事実を目の当たりにするからに違いない。耐えることなく、いつもこの瞬間に支えられ、安心感もいただいている事実からの限らないプレゼント。さてお返しは…。

2010/07/20

70代と65歳は過ぎていると見える白い野球帽をかぶった職人さん風の男性二人が、仕事を終えたのか3階建ての小さなビルから出てきた。野球帽の男性がもう一人に「じゃ、気をつけてね」と別れを言うと「ああ、じゃバイバイ」と年配の男性。「バイバイー」と二人はそれぞれの道へ。小学生が下校途中で友だちとさよならするときによく耳にするが、こんな年配の男性ふたりの「バイバイ」には新鮮な驚きとほほえましが湧く。

神社の参道を歩いていく野球帽の男性はなんだか楽しそうに歌を声高く歌いはじめた。「♪ココロまち、心待ちっ！♪」と足取り軽やかに前を歩いて行った。仲間と仕事を無事終えた喜びだろうか。後を歩く私の足まで弾んできた。

2010/07/22

梅雨の明けないうちから30度を越えて、昨日今日は37、8度に気温が上がるほどの熱暑。朝9時でも30度になっている。ウォーキングで外に出ると微風だが東風で心地いい。日差しは強いが家々の木々や並木の陰があってその下は少し涼しい。方向によってまったく日陰のない道では、電柱と電線の陰でも有りがたい。この状況の中ウォーキングをすると必ず思い出すのは映画の寅さん。真夏、たぶん北海道でだっ広ーい草原だか畑の端で樹木も一軒家もない、かんかん照りの中で、暑さに参ってたった一本立っている細い電柱の陰に大きな体を隠そうと必死になって動く寅さんの様子。

ウォーキングの目的地近くの小さなお堂の前の立て札に百近い名札が張られている。観察チェックにと一つの名前を記憶しようと一番に目に入った名前札は「佐野雪枝」。汗だくのウォーキングおばさんに事実からのクールプレゼント。（千葉県市川市CLインストラクター）

 [目次へ戻る](#)